

# 窓辺

高齡社会と  
医療のICT化

毛利 博  
もちり ひろし

日本では少子高齡化が進んでいます。2025年には団塊の世代が後期高齡者となり、40年には人口減少が顕著になると想定されています。これからの20年は要介護、要支援を必要とする人口が増加し、医療と介護の連携がこれまで以上に必要となります。急性期医療だけでなく、質の高い回復期の医療提供を確立し、病気になるっても元気に回復して生活ができることが求められます。

100年後には、静岡県の人口は現在の3分の2程

に減少する予測があります。頑張ってきた世代が安心して過ごせる環境づくりが大切です。右肩下りの日本経済を鑑みながら、県民が安心できる医療体制をつくることが行政には求められます。

高齡化を伴う人口減少社会では、医療需要の減少とともに病気の種類が変化し、病院のかし取りは難しくなります。このままでは、従前の医療提供体制が限界にくることは容易に想像がつきます。状況に見合った医療を考えなければいけません。病院間での医療を補完する観点から、ICT(情報通信技術)を利用した診療の在り方も議論する必要があります。皆さんが住み慣れたところを離れることなく診療を受けられる体制づくりが必要になってくると思います。

新型コロナウイルス禍で医療のICT化は加速しています。医師の働き方改革にも運動していきましょう。ICT化を進めることで医療者や患者さんの負担が軽減していく可能性もあります。日本の新たな戦略として、医療のICT化を前に向きに検討してはどうでしょうか。

（県病院協会 会長）  
藤枝市病院事業管理者